



御所の水公園の一角には
スイレンも花を咲かせている

御所の水公園を整備し、管理している伊藤勇太郎さん



御所の水

公園内には「御所の水」と名付けられた天然水が湧き出る水くみ場がある。「御所の水」は、近隣の山々のブナ林を源とする伏流水で、およそ80年の歳月を経て地中で濾過され湧き出す。県の水質調査において、良質な天然水であることがわかっており、県内外から水をくみにくる人が後を絶たない。

この天然水に着目し、水くみ場を整備したのは、地元で建設業を営む伊藤勇太郎さんである。地元住民で組織された鶴子地区環境整備振興会（会員50名・永沢栄治 会長）と協同し、現在も維持管理を続けている。

休耕田の再生

水くみ場周辺は、以前、荒れ果てた休耕田であった。そのため、伊藤さんが田んぼを借り受け、整備をして、ハスやスイレンを植えた。これが「御所の水公園」のはじまりである。ハスの栽培も初めての試みだったため、試行錯誤を繰り返しながら、現在の面積まで畑を広げた。伊藤さんは、これからもハスの品種を増やしたり、畑を広げて、鶴子地区を盛り上げていきたいと話してくれた。

- 1 「御所の水」で喉を潤す人々
- 2 およそ80年前の水が湧き出す「御所の水」水くみ場



休耕田から天然水とハスの名所へ

御所の水ハス公園

山形県尾花沢市南東部、鶴子（つるこ）地区の山間に「御所の水公園」がある。公園の敷地内には、約4ヘクタールのハス畑が広がり、9千5百株ものハスが見事に咲き誇る。年間約2万人が訪れ、淡い大輪の花が多くの人々の目を楽しませている。（ハスの見頃は7月中旬から9月上旬まで）